

上京 史蹟と文化

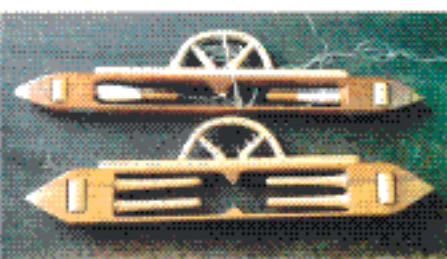
2003 VOL. 25



美を創る

杵きね製作 長谷川 淳一

京都市上京区五辻通千本西入



千本五辻の角を西へ曲がると、その先に三本の杵きねを嵌め込んだ看板が下がる町家が見える。ここが西陣織にとって欠くことのできない「杵」を製作する長谷川淳一氏の作業場である。杵きねは経糸きょうしの間に緯糸おしこを通すための道具といえは単純なようであるが、実際には織物の種類によって多種多様の杵きねがあるという。縫い取り杵きね、すくい杵きね、投げ杵きね、弾き杵きね（トビ、バツタンビ）、銅線どうせんの地用杵きね、細幅用の杵きねの六種類に大別され、さらに細分すれば一定の規格品から、特殊な杵きねまで様々あつて、そのすべてに通ずる技術が必要なのである。

杵きねの主材料は九州産の赤檜あかびで、祇園祭の鉦かねの車に使われているものだという。その鉦かねの懸かけ装品まもりの製法には長谷川氏の杵きねが用いられている。細く製材した赤檜は土蔵で十年間寝かせ、経目きやうめを通して木取りし、鋭で滑らかに仕上げて行く。ある程度の重さがあつて、すべらなくてはならない。杵きねの両端には銅金製の杵きね金かね、さらに磨き黄銅製の杵きね駒こま、磁器製の糸口いとぐち、緯糸おしこをま



く木管などがつけられて完成する。

かつては西陣にも桴を製造する職人は十軒ほどあり、「ひいや」といわれて全国の織物産地へ供給されていた。ところが今では京都でも桴製作者は長谷川氏一人になってしまったという。これは、全国でも手作りで品質の高い桴を作れるのは、たった一人ということだろう。平成十一年に文部大臣より国選定の文化財保存技術保持者の認定を受けられ、その技術が高く評価されることとなった。

長谷川家の桴製作は祖父辰之助氏に始まり、家業として父繁太郎氏に受けつがれ、三代目として修行を重ね、五十年にわたる技術の継承に尽くされている。しかしながら氏の作品は破損しにくく、西陣織業界の現況からこれ以上、新しい桴の注文が増えることも期待できず、廃業した機屋から古い桴が出回ったりしている。最盛期には年間五千丁も作られた桴の需要も一％ほどに減り、長谷川氏自身も後継者に恵まれていないために、二十五年位先まで間に合うよう製作を続けられているという。門口を入った小部屋に端座して手の届く範囲に置かれた道具を手に結ばれる姿は、同じ場所と同じ仕事を続けられた三代にわたる保存技術の先行きを身をもって心配されている様子がうかがわれた。

京都府西陣警察署 下立売交番

下立売通

京都で「立売^{たちうり}」と名のつく地名は、上京区内での上・中・下の立売通、下京区では四条通の麴屋町・

東洞院間の立売東町・立売中之町・立売西町があります。固定した商いの場所である店・棚に対して、店を構えない物売を立売といいました。室町時代以来、今の御苑内にあった公家町やそこへ出入りする商人たちへの立売に始まったのでしょう。

現在の^{しもだちうり}下立売通にあたる勘解由小路は、平安京の北端である一条大路から数えて六本目の道にあたり、幅十丈の近衛大路と中御門大路に挟まれた四丈の小路でした。勘解由小路の名は、このあたりに勘解由使^{かげゆし}という役所があったことに由来します。この役所は平安時代になって臨時に設置された令外官^{りょうげのかん}の一つで、国司^{こくし}が転任の際に作



製する事務引継書である解由^{げゆ}状の不正を勘^しべる役所でした。今も室町下立売上るに勘解由小路町の名が残っています。

東京極大路にあたる京都御苑の東端、寺町御門から仙洞御所の築地堀の南側を経て、烏丸通で下立売通につづきますが、その間は公家町^{けけ}で中断しています。下立売御門も現在地に移されたのは、明治初年に石垣で囲った時で、それまではもう少し東方にありました。

烏丸が二西へ

烏丸下立売の西北の角に二つの大きな門を構えた屋敷があります。ここは戦後、京都地方裁判所長の官舎となったのですが、当時ここに住まわれた所長が取毀される運



聖アグネス教会 聖堂

命にあつた門を移築したのだそうです。烏丸通側は平唐門^{ひらからもん}、下立売側は長屋門^{ながやもん}、今となつては失われていたと思われる文化財を残された当時の司法官の見識にあらためて敬意を表せざるを得ないでしょう。

その反対側の南西角に目立つのは、赤煉瓦造の聖アグネス教会の聖堂です。明治二十八年に平安女学院が大坂から移ってきた時に建

設されました。設計者は円山公園の長楽館や、明治村に移された聖ヨハネ教会などを手がけたJ・M・ガーディナーです。全体にずんぐりとした感じがしますが、これは地震に配慮したのだそうです。三廊式バジリカ型の典型的な聖堂で、北東隅の三層の鐘塔は一階を縦長窓、二階をばら窓、三階をトレサリー窓というように開口部に変化をもたせて単調さを避けています。明治三十一年に献堂式が行われて以来、百年にわたる現役の教会堂としての使命を誇っています。

この教会堂から下立売通に面し



平安女学院 明治館

て西へ、平安女学院の大正館がありました。これはすでに建て替

えられています。さらに室町通へ折れ曲がって昭和館がその時代の建築様式を誇っているようです。

校庭の東側、教会堂の背後には明治二十七年にアレクサンダー・N・ハンセルの設計になる煉瓦造二階建の明治館が残されています。

ハンセルは明治二十一年に來日したイギリス人の建築設計技師で、京都では同志社のハリス理化学館を、神戸では多くの異人館を手がけました。屋根はダッチ・ゲイブル（オランダ風の壁）という段状の破風^{はふ}になっており、十九世期末のイギリスの流行だそうです。

京都府庁

下立売通は烏丸から東堀川間だけが広く、しかも東堀川通との北と南の角は大きく広げられています。それに反して堀川を越えると急に狭い道になります。その理由

はかつてここに電車が走っていたことによるのです。

明治二十八年の二月から四月にかけて第四回内国勸業博覧会が岡崎で開催されるのに合わせて、伏見^{しもえだ}の下油掛^かの舟乗場から竹田街道・木屋町・二条通を経て会場まで、

京都電気鉄道による狭軌^{きょうき}の電車の営業が始まりました。それがさらに七月から九月にかけて木屋町二条から分岐して、寺町二条・寺町丸太町・烏丸丸太町を経由して、下立売通から堀川中立売まで延長されます。

明治四十五年には、京都市営で広軌の電車が京都駅から烏丸丸太町・千本丸太町・壬生車庫間など

が開業します。それでも下立売線は大正十五年に廃止されるまで運転を続け、府庁前に止まっていたのですから、当時いかに京都府知事の権力が大きかったかが、うかがえるでしょう。

その京都府庁の旧本館はというと、鉄柵の表門を通して、明治三十七年に京都府技師の松室重光が設計したネオ・ルネサンス様式の特色ある姿を見せています。周囲には岡田新一氏の設計になる第一号館をはじめとする近代建築の新庁舎に囲まれています。その格調の高さは周囲を圧倒しています。口の字型の平面は各室に自然光を取り入れ、煉瓦造二階建、天然スレート葺の屋根、擬石モルタル塗というように念の入った施工は当時の最高技術によったものでしょう。今も現役最古の府県庁舎として京都府の指定有形文化財となっています。

京都府庁の地は元は民家でしたが、幕末の文久二年（一八六二）に



堀川下立売あたり

会津藩主の松平容保^{かたより}が京都市護職に任ぜられたことによって、下立売―下長者町、新町―西洞院に囲まれた一廓を買収してその役宅となり、藪之内町としました。正面の釜座通が広いのも、そのためでした。慶応三年（一八六七）に守護職を廃止したあとは京都裁判所・京都中学校となり、明治十八年には、二条城にあった府庁をここへ移転しました。そのため周囲が官庁街となったのです。

府庁の東側には天正十八年（一五九〇）に寺町丸太町下るに移った下御霊神社がありました。西洞院西入南側には都下七名水といわ



京都府庁旧本館

れた滋野井があつて、今も学区名に残る「滋野」はこれに由来しています。さらに北側には重要無形文化財「友禅」の保持者である羽田登喜男氏の工房と羽田美術館があります。

堀川に架かる下立売橋は堀川第二橋といい、寛永三年（一六二六）に後水尾天皇の二条城行幸に際して、中立売の堀川第一橋とともに架設されました。木造高欄擬宝珠附の石柱橋で、第一橋を鶴橋、第二橋を亀橋と称したと伝えています。

明治六年に第一橋とともに石造アーチ橋に架け替えられました。

第一橋の欄干には長谷信篤知事をはじめ白川村の石工に至るまで、建設にかかわった人々の名が彫りつけられています。しかし第二橋はのちに拡張されてコンクリートに覆われてしまいました。その下では今も石造のアーチ橋が支えています。橋のたもとには「堀川第二橋」の文字のある親柱だけが残っています。



下立売智恵光院あたり

大内裏と聚楽第

下立売通の大宮から御前通までの間は平安京の平安宮（大内裏）に相当し、聚楽第の南端でもあったとされています。豊臣秀吉が自らの権力を誇示するために造営した聚楽第は、十年余で徹底的に破壊されます。そのために遺構も発見されにくく、その範囲も確定していません。

勘解由小路は陽明門（近衛御門）と待賢門（中御門）との間にあたり、大内裏では左近衛府と東雅院との境界になります。大内裏には道路が通じていませんから、このあたりから下立売通は北へずれて

います。

大内裏は度重なる火災と、平安時代後期の政治形態の変化によって、その機能を停止してしまいました。若き日の藤原道長が兄二人とともに廃墟化した豊楽殿で肝試しをしたというような話も残っています。裳を並べていた官衙での執務は貴族の里亭（自宅）に移り、摂関政治とのかかわりで内裏は天皇の母方の邸宅へ移り、里内裏が成立します。平安末期には全く荒廃し、やがて荒れはてた野となつて内裏の野―内野といわれるようになります。そのために一条通―二条通、大宮通―御前通に囲まれた地域の道路は格子状でなく、辻子（図子）が発達した迷路になっているのです。

大内裏の多くの建物の遺構を見つけ出すことは非常に困難です。

長岡京以前の都の跡は、古くからの住宅地と違って発掘すれば遺構を簡単に発見できますが、それが何に当たるかはすぐにはわからないのです。



いのです。ところが平安京では平安時代に編纂された『延喜式』の記事や、当時の地図が伝えられていて、道路は今につながり、宮殿や官衙、邸宅などの名もわかります。その代り、千二百年の間に度々の大火に遭いながらも都市の形態を保ちつづけたために、平安京は今の京都市民の生活の場の地下に埋もれているのです。焼跡に土盛りをしたり、礎石や基壇をすっきり取り除いては復興するということを繰り返されている上に、建物が密集しているので遺跡が発見しにくいのです。ガスや水道工事などの立会調査でも多数の遺構や遺物が検出されていますが、それも極く浅いところであり、点としてしかとらえられませんから、大規模な建物の遺構がそっくり発掘さ

れるというのは夢のまた夢でしょ
うか。

ところが嬉しいことに昭和三十
七年に、下立売通土屋町西入で民
家の改築現場から内裏内郭の廻廊
跡が発見されました。さらに昭和
四十六年にはその十メートル南で、
約二十七メートルにわたる基壇の
縁石列が確認され、初めて内裏の
遺構の一部が姿を現わしたのです。
出土した巴文軒丸瓦の年代から保
元二年(一二五七)再建の内裏と考
えられています。この遺構は地中
に埋め戻され、平安宮第一号の国
史跡に指定されて保存が図られま
した。それ以後も付近では承明門
の一部や豊楽殿など内裏の遺構が
少しずつ見つかっており、これら
を基準点として将来平安京の全貌
が明かになって行くことでしょう。



竹林寺・平野国臣の墓

上と下の下立売

御前通の西から下立売通は二本
になります。東から続いてきた道
は下ノ下立売と呼ばれ、その北百
メートルのところで真直ぐ西へ妙
心寺の門前に達する道を上ノ下立
売と称しており、妙心寺道ともい
われます。

下ノ下立売通が紙屋川を渡る手
前に、竹林寺と法輪寺が向かいあっ
ています。竹林寺には元治元年
(一八六四)の蛤御門の変による
兵火の中、六角の獄中で未決のま
ま斬首された平野国臣以下勤皇の
志士たちの墓があります。これは
明治十年になって西ノ京円町付近
の西刑場址から姓名を朱書した瓦
片とともに白骨が発見されてこの
時の犠牲者とわかり、竹林寺に埋
葬されたのです。

法輪寺は達磨寺の通称で知られ、
八千体の達磨を安置した達磨堂や、
日本の映画関係者四百余霊をまつ
る貴寧磨殿などがあって新しい名
所となっています。

下ノ下立売通は新しい丸太町通
と交わりながら、西ノ京・花園・
太秦・常盤を通り抜け、嵯峨甲塚
町で有栖川の甲塚橋を渡り、さら
に西へと続きます。半世紀ほど前
はのどかな田園の中を双ヶ丘や音
戸山などが眺望できたのですが、
今では全く住宅地と化してしま
いました。甲塚橋のたもとに文政七
年(一八二四)再建の道標が立っ
ています。その北面に示された
「左北野天満宮」の目的地名の下



法輪寺達磨堂

に「二条下立売」とあって、こ
の道がここまで下立売の名を残し
ていたことがわかります。

また太秦の蚕の社と俗称される
木島坐天照御魂神社の前にある安
永五年(一七七六)の道標にも
「右三条中二条 左下立売」とあ
ります。この道標はその下に「太
秦広隆寺門前」とあるように、元
は広隆寺の三叉路にあったと思わ
れます。三条は今嵐電の走ってい
る道、中は真直ぐ東へ太子道、左
は京都バスの走っている道で双ヶ
丘の南で下立売通につながります。
このように下立売通は嵯峨や太
秦から京へ入る重要な街道でもあっ
たのです。



紙屋川に架かる新下立売橋

上京の埋蔵文化財

京都御苑と本多家京屋敷の調査―ごみ穴は語る―

（財）京都市埋蔵文化財研究所は最近、京都御苑内の京都迎賓館（仮称）建設予定地、その周辺と大宮仙洞御所北側の通称「広小路」で調査しました。その他中京区になりますが、現在（七月上旬）調査中の京都市立本能小学校跡地があります。

京都御苑内の調査

調査地である京都御苑は平安京の左京域の北東部にあたります。このあたりは平安時代には貴族や院の邸宅が推定されています。そして桃山時代になると公家衆が集住させられ公家町が形成されました。以降江戸時代は屋敷の配置換えはありましたが、一貫して公家屋敷街でした。しかし明治二（一

八六九）年の遷都に伴い公家達も東京へ移ると公家町は撤去されました。その後明治二〇（一八七七）年からの大内保存事業で本格整備され現在の姿となりました。従って当地は公家町撤去以降、一部の人を除き居住はなかったと思われます。そのため、後世の開発がなく公家屋敷関係の遺構が良好に残

存した一因となっています。公家は公家町が消失しても、いまだ京都の文化の一翼を担った京都を代表するものであります。

現在まだ分析途中ですが、この御苑内や本能小学校跡の調査で江戸時代の上層の公家、それより下位の公家、大名、それぞれのごみ穴が見つかり、そこから見つかった食物の残りかすを調べることができました。現在までにわかっている主な食物のうち動物についてあげてみたいと思います。

鷹司家の調査

大宮仙洞御所北側と通称「広小路」と呼ばれる道路内で防火水槽設置に伴う調査を二〇〇二年に実施しました。当地は江戸時代前期には、五摂家の一つで家禄一五〇〇石の鷹司家の邸宅内にあたります。

す。その時代の遺構は土蔵・石組の穴蔵・築地塀・溝・ごみ穴を確認しました。調査面積は八一平方メートルでしたが、東西二・七メートル以上・南北三・三メートルの方形で、深さ二メートルのごみ穴が見つかりました。このごみ穴からは、貝類ではハマグリ・アワビ・サザエ・シジミ・イタボガキ・アカガイ・タイラギ、骨では魚類はマダイ・ハモ属・カマス・スズキ目、サバ属・カツオ属・アジ科・カレイ科・ボラ属・イワシの仲間・コチ科・コイ、鳥類はガンカモ科などが確認できました。貝類はシジミ、魚類ではマダイが多くありました。またこの調査現場から遺物整理箱で約五十箱のごみ穴の土を持ち帰り、最終的に〇・五ミリメッシュの篩に掛け選別したところ、微小な骨・鱗・魚歯などが見つかりました。

公家町の調査

京都御苑内の京都迎賓館（仮称）



「広小路」のごみ穴

に伴う調査は平成九（一九九七）年から平成一三（二〇〇一）年までの六年間かけ総計約一四〇〇〇㎡の調査になりました。調査地は江戸時代には、家禄三五石以下の公家屋敷街にあたります。その

時代の遺構は公家町の南北通「二階丁通」とその西側に並行する「中筋通」および建物跡・池跡・能舞台施設・火災整理土壇・地下式土壇・ごみ穴などが確認されました。遺物は土師質土器・国内産

各種陶磁器・輸入（中国・ヨーロッパ・東南アジア）陶磁器・国産・輸入ガラス製品・各種金属製品・貝殻・骨などが出ています。

京都迎賓館（仮称）建設予定地のごみ穴

遺構の中で生活残滓が大部分を占めるごみ穴は、江戸時代各時期のものが屋敷地裏庭あたりと思われるところでも多く見つかりました。その中からは、食物残滓といわれる人間の食生活に伴う動物

性の廃棄物などが、多量に出てきました。主要なものとして、貝類はアワビ・サザエ・バイ・テングニシ・アカニシ・アカガイ・マガキ・イワガキ・マシジミ・ハマグリ、骨では魚類はハモ属・マダラ・コイ・マダイ・アマダイ属・ブリ・トビウオ・ヒラメ、鳥類はニワトリ・ガンカモ科、哺乳類はウシ・ウマが確認されました。珍しいものでは、近年の調査で観賞用の置物や漢方薬に用いられた可能性が指摘されているサンゴも見つかり



貝類（公家町出土）

ました。サザエは生息環境の違いを示す有棘・無棘（とげ）両タイプがあり、各地から搬入されたと思われる。貝ではハマグリ、魚類ではマダイが一番多くありました。骨には様々な損傷がみられ、ハモ属、タイ、ガンカモ科などの骨には鋭利な刃物痕があるものがありました。その痕跡は種類によりその部位も似通ったところがあり、食材ごとに同じ調理法をしていた可能性がります。このような食物残滓が出るごみ穴には貝類



タイの骨（公家町出土）

の多いものと、魚類の多いものに
分されました。貝は、貝殻から生
息域や捕獲時期が、魚は鱗の年輪
から年齢と捕獲時期が推定できる
場合があります。

大名屋敷の調査

本能小学校跡地は、織田信長が
自刃した本能寺の近隣で江戸時代
前期頃には、町屋と上級の武家で
ある姫路城主本多甲斐守の京屋敷
にあたります。ここでも屋敷の北
西隅で東西八メートル・南北八メー



ハモの骨 (公家町出土)



ハモの頭骨に残る切断痕 (公家町出土)



ガンカモ科の骨 (公家町出土)



ガンカモ科の骨に残る切断痕 (公家町出土)

トルの方形で、深さ一・三―一・
四メートルのごみ穴が見つかりま
した。中から貝類はアワビ・サザ
エ・アカニシ・バイ・アカガイ・
ハマグリ・アサリ・イタヤガイ・
タイラギ・ツメタガイ・カキ・シ
ジミ・タニシ、その他コウイカが
確認できました。魚類ではマダイ・
スズキ・カサゴ・カツオ属・ブリ
属・マゴチ・ハモ属・カマス・鳥
類ではニワトリ・アオサギ・ガン
カモ科・キジ属が確認でき、一部
に解体痕跡がありました。哺乳類

ではウシ・ニホンジカ・ネズミ・
イヌ・イエネコが確認でき、ネズ
ミ・イエネコ以外は解体痕跡があ
りました。

京都御苑との比較では、シジミ
が極端に少ないこと、アサリとネ
ズミ・イヌ・イエネコが目立つ特
徴ではないでしょうか。シジミは
京都御苑では色々な大きさのもの
があり、大きさによる選択はなさ
れていないようです。アサリは江
戸時代中期の図説百科辞典である
「和漢三才図会」によれば、「惟々

摂泉播州ニハ希ニ有ル爾東海極テ
多シ」とあり、東海地方から運ば
れてきたのかもしれない。ネズ
ミ・イヌ・イエネコは食用という
より、将軍家・諸大名などの特権
的娛樂である鷹狩に使われた鷹の
餌の可能性ががあります。

これらのごみ穴は、そこで生活
した人たちの身分・階級を反映し
たものだと思います。ごみ穴か
ら出てくる動植物を詳しく調べる
とともに、一緒に出てきたものや
文献資料なども合わせて考えるこ



京都市立本能小学校跡地のごみ穴

とで、そこに暮らした人々の生活・文化がより解明されるのではないのでしょうか。今でも各家庭の生ごみを調べると、各家庭で違うようにです。今更ながら、たかがごみ穴されどごみ穴です。

(財)京都市埋蔵文化財研究所

電子 正彦

(今回の動物遺存体の同定・分析にはくらしき作陽大学 北野信彦・岡山理科大学 富岡直人両氏のご教示を得ました)



イヌの骨 (大名屋敷出土)



シカの骨 (大名屋敷出土)

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本 社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200

◆葬儀式場◆

公益社北アイトホール(堀川駅前) 京都市北区堀河通堀川東入 ☎075(414)0420
公益社中京アイトホール(五条) 京都市東山区五条通大和大路 ☎075(551)5555
公益社南アイトホール(堀川八条) 京都市南区堀川通八条下る西御 ☎075(662)0042
公益社宇治アイトホール(宇治駅前) 宇治市藤島町(文教大学前) ☎0774(20)0042
公益社美阿アイトホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎075(523)0042



上京の町家

おか けい 岡慶

京都市上京区六軒町通大宮西入

今出川大宮といえば「千両ヶ辻」の入口、その角にあった西陣を代表する洋風建築も毀され、マンションの建設工事がはじまっている。一筋南の狭い中筋で、それを西へ入ると、格子造の町家が十軒ほど軒を連らねる、あまり知られていない西陣の空間かもしれない。その西の端に今回紹介する町家が新しく再生されることになった。

というのは、それまで創業の地でありながら隠居所などに使われてきた町家を修復し、本社機能をもつ本拠が復活することになった。そこは、帯地卸の「岡慶」。これまでは中京区内のビルで営業しておられたが、この八月五日から、大正創業の地に、戻ることになったのである。

移転を前に、岡本圭右社長を訪ねて話をうかがった。明治末が大正期の建築と思われる二階建ての表は昔の姿に改修され、入口には雁金紋の新しい暖簾が下がる。「雁金」といえば江戸時代初期の芸術家、尾形光琳の実家を思い出す。実はその弟、中村半兵衛の子孫が受け継いできた「雁半商店」を、大正八年に大番頭であった祖父の慶三氏が引き継いで、創業するに際して購入された町屋であるという。

表の出格子、虫籠窓の外観は創業

当時のままに整備され、入口から奥へ三間が並び、西側には坪庭や茶室があり、通り庭の土間にも台所が昔通りに残され、奥には奥庭と土蔵が配されている。店の二間は商品を扱いやすいように板の間に交えられているが、昔の家具も置かれて呉服らしい店舗となっている。二階は事務機能に使われているという。



花工房

いろいろなシーンに
応じた お花の贈りもの
花束・アレンジメント。

—お電話でのご予約承ります—

京都本店
京都市上京区南河原町三丁目
TEL:075-414-8708 FAX:075-414-7787
URL: <http://www.hanahaba.co.jp>
新富路店・西川路店・大津店



加藤眼科

〒603-8116
京都市北区紫竹上本町七
(堀川通北山ノ上ル西側)

TEL(075)493-8600

診療時間
月・火・水・金
午前9:00～12:00
午後4:00～7:00
木・土
午前9:00～12:00
休診 日曜・祝日



京都西陣にある染織工房で
創られた織物地を使った
オリジナルの和の小物・
和の衣のお店です。

弓月

弓月 京店
京都市上京区上七軒 701
TEL: 075-467-8778
FAX: 075-467-9888
<http://www.yuzuki-net.jp>



薬 匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319



憲法月間バスツアー

五月の憲法月間に伴い、五月二十二日、憲法月間バスツアーを実施しました。立命館大学国際平和ミュージアムを訪れ、「十五年戦争の実態」、「第二次世界大戦」、「現代における戦争と平和」の三つのテーマについての説明を参加者が受けました。

戦争の真実を今に伝える資料の数々に、四〇名の参加者は静かに見入っており、戦争の悲惨さについて考え直す機会となり、有意義なバスツアーでした。



春の上京茶会

今年の春の茶会は、上京区文化振興会と上京区役所の共催で、六月二十九日に大本山相国寺で開催されました。前日迄の雨も上がり、梅雨の晴れ間の中、本席を小書院、副席を大書院に設け、表千家家元の懸釜で四百人余りの上京区民らが、一揃の抹茶を喫しながら佗びの境地に浸りました。

また、当日は、方丈室中の間で相国寺派宗務総長江上泰山師に法話をしていただきました。



上京区民文化フェスティバル

恒例の上京区民文化フェスティバルも第九回目を迎え、二月二十三日(西陣織会館)で、上京区民ふれあい事業実行委員会の主催、上京区地域女性連合会の主管で開催されました。踊りあり、コーラスあり、民謡ありと、いろいろな部門に上京区民の個人や団体が参加し、熱演が繰り広げられました。



上京区民文化フェスティバル



編集後記

○西陣織にかかわる方々にすれば、知る人ぞ知る長谷川氏に登場していただいた。聞くほどに技術の極致を教えられました。

○考古学は何十万年前の話ばかりでないことを京都の遺跡が物語ります。

つい百年余り前の先祖が、こんな生活をしていたのか。これは偽りではありません。これからの考古学の新しい話題でしょう。

○何んでもない道を歩いていると、思いがけない発見があります。「上京の大路小路」が散歩の手引になればと思っています。

(い)

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入

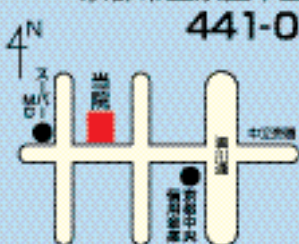
441-0675

診療時間

午前 9:00~12:00
午後 4:30~ 7:30

午前 9:00~12:00まで

休診 木・日・祭・土曜午後



季節料理
祇園
い
田



〒605-0088 京都市東山区山科花見小路東端4-1
TEL.075-585-1515



無祖
はたん鍋と京料理
煙かき
京・上野区前丸西
RUBINO GION
075-585-1515




特別ウェディングプラン
40名様698000円
なんと
10万円プレゼント

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

くつろぎ
¥3,500(税別)

ホテルルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL.075-432-6161(代) FAX.075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



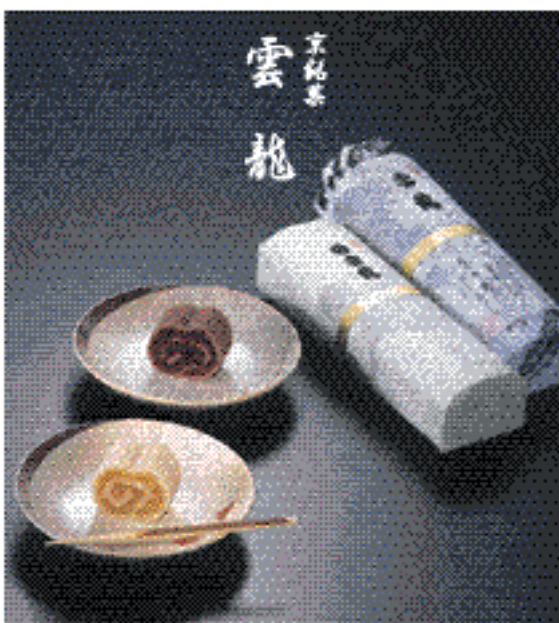
創立以来七〇年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気になれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る
(北野天満宮/バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



創業五十年
京の伝統と技術



依屋吉富

本店 京都・室町上立売
電話 (075) 51111代
烏丸店 京都・烏丸上立売
電話 (075) 51111代

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラは日本農産物規格JAS-3143434、
米国農産物規格M-5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様の目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラ」。

すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP®に準じた製造工場で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。

おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様に日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に応えられる理由です。

※製造過程の製造管理及び品質管理に関する基準



サン・クロレラは日本農産物規格に認定されています。
財団法人日本農産・食糧食品協会の認定マークは、品質規格基準に基づき、
協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。
サン・クロレラの製造工場はISO9001の認証を取得しています。